日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）

電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

91.3.25　No. 3372

危険騒音の元凶・成田エクスプレス

二のままでは深刻な事態に

開業一週間で早くも問題が続出

成田エクスプレスが開業して一週間、危険と騒音を撒き散らし、地域住民を全く無視して強行したことえの反動が早くも出始めた。

総武線沿線で四街道在住の組合員は、「エクスプレスが走り始めた時は地震かと思った」というほどの、凄まじい騒音と振動を伴って走り去っていくというのである。

高架下での音と揺れはさらに凄く、新小岩駅近くに住む市民は「地震のような凄い音がして目が覚めた、快速列車の音など問題にならない」といって動労千葉を訪ねてきたほどだ。

成田エクスプレスを運転した乗務員からも「とても疲れる」という声が聞かれ、このままでは運転保安上深刻な事態に陥ることが懸念される。

市議会でも問題に

また、この成田エクスプレスの騒音と振動問題で中江昌夫船橋市議は、三月一二日の船橋市議会において、エクスプレスの減速と船橋駅停車を要求し、ＪＲ側の誠意のない態度に対しては「運行差止め訴訟」「減速訴訟」に訴えてでも市民の生活を守るべきと市の姿勢を追及し、大橋市長も「重大な決意をもってのぞむ」と答弁せざるを得ず、一六日にＪＲに要望書を提出している。さらに、千葉市議会でも一三日に千葉駅停車の要望が決議されているように、県内の各地で成田エクスプレスに対する様々な問題、特に騒音と振動に対する問題が噴き出してくること

忙人寸語

成田空港ターミナル地下駅へのＪＲ東日本と京成電鉄の乗り入れが、ようやく実現した▼成田空港が開港して十数年、ようやく懸案が一つ解決したことになる。長年にわたり実現への努力をあきらめなかった人々に、敬意を表するとともに、どうの昔にできていなければならないものが、できないままに、特にどうという支障もなかった事実に感じいらざるをえない▼さっそうと走る成田エクスプレスに、けちをつける気持ちはもうとう無いが、東京方面と成田空港との所要時間は多少短縮されるにせよ、二十数年間も無くてもすんだものが、完成したからといって、特にめでたい気分にもなれない▼空港公団や鉄道関係者には、とてもめでたいらしい話に、素直に喜べないのは、これらの連行に千葉県民はまるで無視されているとしか思えないためであろうか。成田エクスプレスに至っては、県内の駅はすべて素通りである。県民は利用したくてもできず、轟（ごう）音を立てて走り過ぎる電車を、ぼう然と見送るしかないのだ▼「最新鋭の特急電車は、お前たちにはもったいない。文句をいわずに騒音公害と振動公害をくらっていればいいのだ」ＪＲ関係者がまさかそう考えているとは思わないが、東京から見ると千葉県には人が住んでいないように見えるのだろうか▼成田空港問題がこじれにこじれて、二期工事さえ完成できないでいる。そもそもの原因は、千葉県の地形だけを見て、そこに住む人々の生活と感情を無視したことにある。同じ間違いを、もう一度繰り返すつもりだろうか。東京の偉い人の悪癖は今も直っていないようだ。

成田エクスプレスは、まさに公害そのものだ!!

上、二二日付 千葉日報
下、一六日付 朝日

成田エクスプレス騒音対策など要望

船橋市がＪＲに

船橋市は十五日、ＪＲ千葉支社に対して、十九日から運行される成田エクスプレスの騒音対策などを求める要望書を提出した。

要望書では①成田エクスプレスの高速運転に伴い騒音が高くなることが予想されるため、減速運転や防音壁などの騒音抑制対策②同列車の船橋駅停車③京葉線経由に変更される在来特急の南船橋駅停車、などを求めている。

ＪＲ千葉支社では、騒音については軽車両を使用するため従来以上に増大しない、また船橋駅については成田空港駅乗り入れの快速電車を利用してほしいと回答した。

市は現在騒音測定調査を行っており、ダイヤ改定後にどう変化するか四月中には結果を出したいとしている。

「予科生士職登用差別」3/20

地労委第四回審問開かる

三月二〇日、千葉地労委において、「予科生士職登用差別事件」第四回審問が行われた。

今回の証人は、前回に引き続き田中書記長で、ＪＲ側の反対尋問が行われた。

しかし、ＪＲ側代理人の大川、笠原は、本件差別に対する具体的なことには一切言及できないばかりか、「ＪＲは不当労働行為はやっていない」と言い訳に終始した。

いわく「松田職員局長（当時）は『国労の山崎委員長（当時）の腹をぶん殴ってやる』とわ言ってない、本人がそう言っているじゃないですか」とか「掲示板等便宜供与がなされていないのは労働協約を結んでいないからですね」という質問をするが、ことごとく田中書記長より反論されてしまったのである。

本件早期命令をかちとり、ＪＲ体制危機の中、動労千葉破壊、不当労働行為を強めるＪＲに目に物見せてやろうではないか。

は必至である。

そして、ハンドルを握る側からいっても、危険をもたらすスピードアップをこのままにしておくことはできない。

地域住民にさらに訴え闘いぬこう。

当面するスケジュール

- 本日、清算事業団公判
  千葉地裁、一三時～
- 中江第三次統一行動
  三月二九日～四月三日、三〇、三一日は集中行動日。全力で中江事務所へ